

令和2年度 荒尾市保健・福祉・子育て支援施設（仮称）基本構想策定

第2回基本構想策定委員会 議事要旨

■開催概要

日時：令和2年 11月17日（火）15:00～17:00

場所：荒尾市役所2階 市長公室

出席者：委員12名、事務局11名

	所属・役職	氏名
委員	熊本大学 熊本創生推進機構大学院担当准教授	田中 尚人
	荒尾市医師会 副会長	伊藤 隆康
	荒尾市健康づくり推進員協議会 会計	黒岩 由美子
	荒尾市食生活改善推進員協議会 書記	大塚 恵子
	荒尾市社会福祉協議会 事務局長	小川 公子
	荒尾市民生委員児童委員協議会連合会 会長	甲斐田 忠
	荒尾市老人クラブ連合会 副会長	和田 トミ子
	荒尾市身体障害者福祉協会連合会 会長	斎 浩史
	荒尾市保育協議会 会長	伊藤 美佳子
	熊本県私立幼稚園連合会荒玉支部荒尾地区 理事長	開田 郁子
	荒尾市保育園保護者会連合会 会長	石崎 剛（欠席）
	荒尾市PTA連合会 会計	坪根 ゆり
	荒尾市地区協議会会長会 会長	河部 啓宣
事務局	荒尾市 保健福祉部	片山部長、塚本参与
	荒尾市 福祉課	宮本課長
	荒尾市 子育て支援課	原口課長
	荒尾市 保険介護課	岩本課長
	荒尾市 すこやか未来課	田代課長、柴田課長補佐、小宮係長、前広副主任
	パンフィックコンサルタンツ株式会社	山口、江本

■次第

1 開会

2 議題

- ① アンケート結果、ヒアリング結果【資料1】
- ② 施設の基本理念（コンセプト・方向性）について【資料2】
- ③ 導入機能、導入機能の配置方針【資料3】

■議事概要

<コンセプト・方向性について>

(委員長)

- ・ 前回の委員会で、保健・福祉・子育て支援施設とは何かということで、皆さんに保健のこと、福祉のこと、子育てのことを教えていただいた。
- ・ 民生委員も忙しい、連携できていない、子どもが遊ぶにはこれがあったらいい、などを教えていただいた。
- ・ 今日は議事3つについて、積極的に発言をいただきたい。

■議題1 アンケート結果、ヒアリング結果

- ・ 資料1に基づき事務局より説明

(委員長)

- ・ 子育て世代は「こういうものがあっていい」という結果で、50代以上は「今使える教室など」という結果かと思う。ギャップがある。
- ・ アンケート調査は定期的に継続することで市民が必要な施設につながるので引き続きやってもらいたい。

(事務局)

- ・ できるだけ調べたい。

(A 委員)

- ・ アンケート調査に対して、単に「あった方がよい」（あれば誰かが使うだろう）として答えたものか「自分が使うもの」として答えたのか教えてもらいたい。

(事務局)

- ・ そこまでは分からない。

(B 委員)

- ・ （高齢者の移動手段が徒歩や公共交通機関に限られることから）せいぜい住民健診にしか行かないので、(そのような人にも利用してもらえそうな)高齢者に魅力のある施設であってほしい。

(C 委員)

- ・ リーダーが交代で昔遊びなどを指南するような体験型・参加型の交流ができれば良い。

(D 委員)

- ・ アンケートへの回答率が低い。もしかすると市民は新しい施設に興味が無いのかもしれない。
- ・ ここでの議論をどうやって広めていくのが大切ではないだろうか。

■議題2 施設の基本理念（コンセプト・方向性）について

- ・ 資料2を基に、事務局より説明
- ・ P3は、議題3で説明

(A 委員)

- ・ 資料の③にある「子どもの居場所」は大事なことだと思う。アクティブシニアと絡めていければ良いと思うので「4 ターゲット」からフィードバックすれば良いとも思う。

(E 委員)

- ・ 緑ヶ丘に住んでいるが公園に雑草が生い茂っていて使えない。公園があるだけではダメで使えるように管理する必要がある。

(F 委員)

- ・ 桜山では草取りの担当区域が決まっている。整備をして綺麗にしていると人が使うため、整備をして遊べる環境を作ることが大切だ。

(G 委員)

- ・ 子どもは（公園などの遊ぶ）場所があっても遊ばない。
- ・ 子どもが興味をもって楽しく遊ぶ場所としての施設であるためにはアンケート調査は子どもの意見を聞くべき。
- ・ 子どもが自由な発想で想像力を逞しくできるように教育方針を考えることも重要ではないか。
- ・ 荒尾に行けば、夢を持つような子どもが育つというような観点を持たないと、施設を作っても遊ばない。

(委員長)

- ・ それは入れてもらいたい。調査で難しいところがあればコンサルタントにも手伝ってもらいたい。

■議題3 導入機能、導入機能の配置方針

- ・ 資料3に基づき、事務局（市）より資料3に基づき説明

●設備などについて

(A 委員)

- ・ 前回の会議でも市内の団体間の「連携」が意見として出されたが、施設で会議するなり市内の各種団体が入れる場所が欲しい。
- ・ 防犯上から警察署の交番もあって欲しい。

(委員長)

- ・ 交番を置くことはできるのか？

(事務局)

- ・ それは熊本県警察の判断によると思われる。

(H 委員)

- ・ 施設には視覚障がい者のための点字パネルや案内を適切に整備してもらいたい。

- ・ 点字パネルを踏んで車イスが事故に遭った例もあることから整備に際しては障がい者と一緒に検討してもらいたい。
- ・ 音が聞こえない人のために、手話通訳者もいてほしい。

(委員長)

- ・ 共通機能。常駐も必要。近所の人が連れて行ってってくれるようなことも必要。

●ボランティアへの支援、アクティブシニアについて

(C 委員)

- ・ 災害もあっている。避難場所も必要だしボランティアへの支援なども必要

(I 委員)

- ・ 施設や制度があっても利用しなければ役に立たないので是非とも利用しやすい施設や機能にしてもらいたい。
- ・ 緑ヶ丘における地域連携の例として、学校部活動が無くなったのでサッカーやバドミントンに近所のアクティブなおじいちゃんやシニアの方から教えてもらっている。

●拠点づくり、既存地域資源の有効活用について

(D 委員)

- ・ この施設では、地域にあるものを利用して地域の拠点づくりをしてもらいたい。
- ・ 荒尾市では地区担当職員制度が始まっているが、地域の拠点を中心に地域担当職員制度を広め、市と地域との連携を図れば、地域でも保健・福祉・子育ての連携が図れる。
- ・ 拠点があれば、パソコンで書類や手続きも遠隔でできる。
- ・ 南新地では「アウトドア施設」などが予定されているようだが「キャンプ場」であれば、万田山でキャンプしたり学校規模適正化で廃校となった旧五中施設でもキャンプが可能だし海岸レジャーとしてのキャンプ場も考えられる。
- ・ 万田山でのロッククライミングなど、既存の地域資源を有効活用してもらいたい。
- ・ また、荒尾駅に関しては手直しではなく根本的な整備をお願いしたい。

●一貫した支援機能について

(J 委員)

- ・ 配置方針案を見ると、この施設で「コントロールタワー」を作りたいのかなと思っている。
- ・ それとこれは社会福祉協議会としての意見ではなく私的な要望として聞いてもらいたい、乳児から中学校を卒業するくらいまでを一貫して支援ができるような機能があれば良いと思う。
- ・ 発達障害などを早く見つけて療育につなげる。そういう機能がここにあればよい。

●教育について

(G 委員)

- ・ 最新の出生数が前年比で 100 人減っている。
- ・ 荒尾市で産み育てたいと思ってもらえるようにしてもらいたい。
- ・ 多くを求めず、子どもを産んで育てることなど、どこを求めるかを考えないといけない。

(委員長)

- ・ 荒尾は大牟田と経済圏を一緒に考えることができるのがメリット。
- ・ 人口を大牟田とセットで考えるのかを賢く考えた方が良い。税金は荒尾だが、大牟田の施設も利用できるなど。
- ・ 何かに特化することはありだが、特化するとそのターゲットしか使わない。

(G 委員)

- ・ 荒尾市は、スポーツにも勉強にもとても優秀だった。
- ・ 荒尾で子育てすると「スポーツも勉強もできる」となればよい。
- ・ 安くてだれでも勉強できる場や、良いコーチ、いい先生を市が呼ぶなど、子供の教育力を高める。
- ・ 福岡ではプロ野球選手や芸術家が来る幼稚園などがある。よそにない特色のあるものがあればよい。

(I 委員)

- ・ 高校や大学をどこに通わせるかを考えると、荒尾には普通科は岱志高校しかなく、大牟田や玉名、久留米を選んで市外に出る人もいる。
- ・ 荒尾駅から通って通学できるため、学力を上げるために荒尾駅周辺に中学校以降の勉強施設があれば良い。

(委員長)

- ・ 大事なことである。私は熊本県の高校検討メンバーでもあるが、ここでそのような話が出るとは思わなかった。
- ・ 大学に行くための普通科となっている。業を成し遂げる人や起業する人など、やりたいことを見つけてやっていく力が必要で、特色ある教育を全体としてやっていく必要がある。
- ・ 本施設の子育て支援も、市全体でやっていかなければならない。

●その他

(E 委員)

- ・ 緑ヶ丘のガソリンスタンド近くの公園は草が生い茂っている。子どもが遊ばないと草は伸びる。

(G 委員)

- ・ この施設への希望は詰め込んでいるものの南新地での計画が大きすぎて全体が見えない。何を目指したいのかが分からない。もう少し考えが見えなければ・・・

(委員長)

- ・ 市長の考えを詳細に理解している訳ではないが、このような議論を重ねて市長の考えに寄せてい

くことが必要なのかなとも思う。

(B 委員)

- ・ G 委員の意見に納得した。意見をどのように言えばよいか分からない。

(E 委員)

- ・ 緑ヶ丘地区では、いきいきサロンを開催しており自治会費を納めているので参加者の昼食を無料で提供している。
- ・ 1 時間から 2 時間くらい講師の話聞いた後でお昼ご飯を食べることができる集まりに 20 人から 25 人が毎回来てもらっているが、なかなか参加者が増えない。
- ・ そこまで行く手段がない、近所でも行かない、そこまでして行こうという気持ちにならないのではないかと思う。
- ・ 行く手段や行きたいと思えるような魅力があるとよい。

(G 委員)

- ・ 以前は文化センターにレストランがあったが、利用者も少なく、今はなくなってしまった。道の駅にカフェやレストランができて人も来るのだろうか。

(F 委員)

- ・ 資料 2 頁の「総合案内」は施設内の案内か？それとも市内などのサービスを総合的に案内するものなのか？ 南新地に市役所が移転すれば良い。
- ・ 「地域の幸せ」と書いてあるが何を意味しているのかが分からない。もう少しピンポイントに絞った方がよい。

(委員長)

- ・ 現状は 3 つの機能が来ることが決まっている。アイデアを出してそこから拾っていくしかない。
- ・ 荒尾の全市民で作っていくイメージじゃないといけない。

(A 委員)

- ・ 高千穂に行ったところ人が溢れるほどに賑わっていた。南新地や新しい施設には人が集まるのが重要だ。
- ・ この施設が（南新地や市内の他の施設などと）どう連携するか、よく考えてもらいたい。
- ・ ところで荒尾市社会福祉協議会もこの施設に入るのか？

(委員長)

- ・ 入ると思う。

(D 委員)

- ・ 広く意見を吸い上げてもらいたい。大企業が南新地での事業と絡みたがっていると聞く。大企業から利用されるのではなく、荒尾市は大企業を利用してもらいたい。

(委員長)

- ・ 大企業は有利と判断したら進出するが有利性がなくなれば撤退して何も残らない。荒尾市で大き

な集客力をもっているグリーンランドの活気を支援することで地元が潤う。

(委員長)

- ・ ラムサールや万田坑など、荒尾しかないもので教育もやっていく。県内には、高校生が中学生に教えることなどをやっているところもある。
- ・ 生きていく術を学ぶような教育も考えられる。
- ・ また、障がいがある人が生き易いまちとなれば、だれもが生き易いまちにもなる。
- ・ 一施設の議論をしながら、全体の施設を考えていけるような議論をしていければと思う。

(事務局)

- ・ 次回の第3回委員会では、パブコメの素案を固める必要がある。
- ・ 今回いただいた意見を参考に、事務局から素案を提示することとなりますが、手戻りがなくスムーズに議論できるよう、委員長と相談しながら素案を調整させていただくことについて、承認していただきたい。

(委員)

- ・ 異議なし。

以 上